遺跡紹介

一国山遺跡群

西田和浩

【遺跡の位置】

S=1/25000

【遺跡の概要】

一国山遺跡群は、岡山市北区下足守に位置し、足守平野から東へ入り込む三井谷北側の独立丘陵である一国山（標高約 85 m）の山頂付近に立地しています。発掘調査の結果、山頂の平坦面を主郭とする４つの郭をはじめ、土塁、土留めと考えられる石列、土壙などの城郭に関連する遺構や、弥生時代後期の土壙、中世の段状遺構が検出されました。これらの遺構から、一国山城築造以前、弥生時代後期には募域として利用され、中世には短期間人が居住した可能性が考えられます。また出土遺物からも、弥生時代以降、人の営みがあったことが窺えますが、その遺構密度の低さから営みは活発なものではなかったと推測されます。調査の中心は古墳時代と戦国時代になります

古墳時代には、中期（5 世紀）に 4 基の方墳が築かれ、終末期（8 世紀）の方墳が 1 基築かれます。中期の方墳（１・3 ～ 5 号墳）は一辺 7 ～ 9 mを測り、墳丘の盛土はほとんど残っていませんでした。墳丘の規模は小規模ですが、鉄刀や鏡片・胡籙金具などの副葬品が出土しました。

終末期古墳（2 号墳）は一辺約５mを測り、墳端に列石が廻ります。足守周辺で新たに終末期古墳が発見されることは珍しく、貴重な調査例となりました。

その後築造された一国山城は、関連する遺構が土塁と郭以外ほほとんど検出されず、明らかに城跡に関連する遺物も出土しませんでした。一国山は、羽柴秀吉が毛利方の城である冠山城を攻める際、兵を揃えた場所として「中国兵乱記」にその名が見えますが、「城」とはされていません。このことから一国山城は陣城のような性格のものと考えられます。

【文献】

岡山市教育委員会 2006『南坂８号墳・一国山城跡・一国山古墳群』

【交通】

JR 足守駅下車　徒歩約 50 分

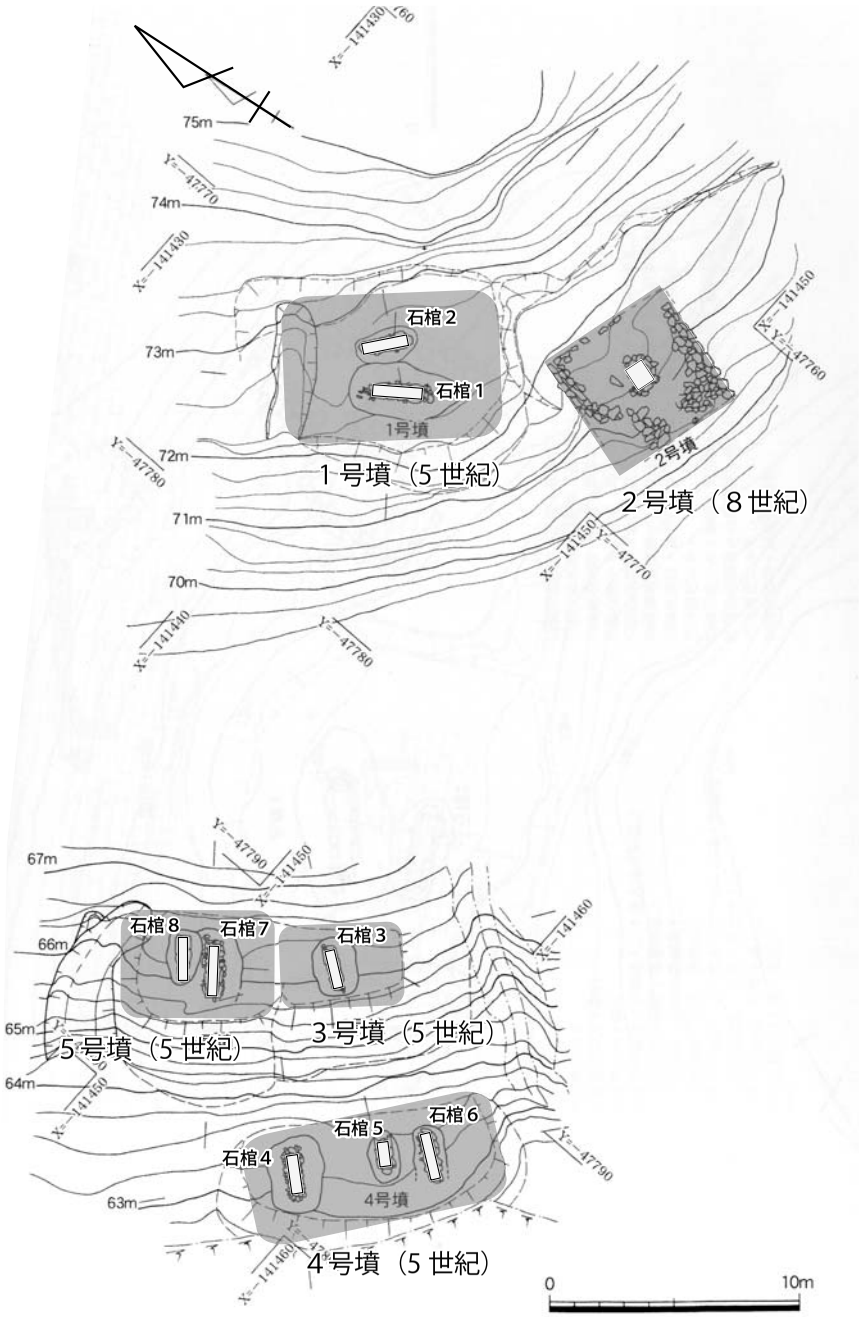

図２　一国山古墳群平面図

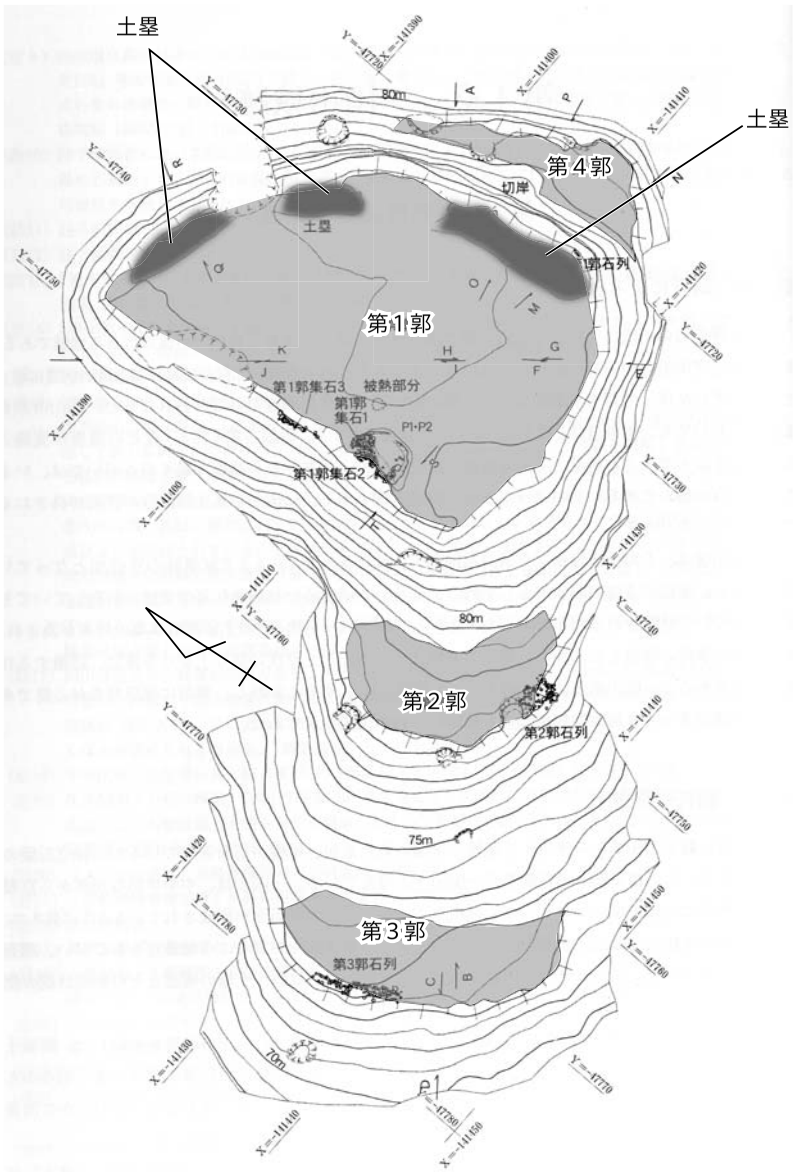

図１　一国山城跡平面図